

今後の証券会社の営業姿勢～国内証券市場の活性化を念頭に～

第二次安倍政権の成立後、日本の株価は堅調な地合いに転じ、日経平均で 2 万円台への回復を果たした。しかし、最近では、国内外の政治・経済環境に先行き不透明感が高まる中、株価も乱高下する場面が目立つようになった。一方、急速に進行する日本の成長制約として作用するとの指摘もあり、将来不安の高まりや持続的な超低金利水準の中で、家計部門の資産管理に対する潜在的なニーズは高まる方向にある。また、フィンテックの進展や取引所市場の再編などが見込まれ、証券会社の経営環境も著しく変貌しつつある。そうした中で証券会社が生き残り、安定的な成長を続けるためには、その営業姿勢やサービス・商品などに、これまで以上の工夫が求められる。そして、「貯蓄から投資（資産形成）へ」の国策に沿い、国内証券市場の活性化を図る上でも、証券会社は重要な役割を担う存在と言える。

そこで本テーマでは、下記の論点・留意点を踏まえて、現在の証券会社の営業姿勢の課題を明らかにし、その解決策を示すことで証券市場の活性化を促すための条件や方法に繋がる議論をして貰いたい。提言については、単なる思いつきに留まることなく、実現可能性を視野に入れ、論理的な整合性を保ちながら、具体的な道筋が示されるよう期待する。

なお、証券市場の区分には機能面や商品別など多様な視点があるが、それらを網羅的に扱くと論点が発散し、建設的な議論にならない恐れがある。このため、本テーマでは市場機能面では「流通市場」、商品面では「株式市場」に絞ることとする。また、「活性化」という概念は抽象的であるため、その定義についても様々な考え方があり、各チームが独自の解釈で立論すると、議論が噛み合わなくなる可能性がある。そこで、今回は原則として「活性化」を、「投資家層の拡大」及び「売買高の増加」の 2 点と定める。その上で、家計の現状などに注意を払いつつ、証券会社の望ましい営業姿勢や株式流通市場のあるべき姿、市場活性化への方策などについて、各々の主張を展開して欲しい。

論点	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・証券の会社の望ましい営業姿勢（＝理念） ・国内証券市場を活性化させる目的 ・株価変動と売買高 ・個人投資家が証券市場に参入する意義 ・取引所の機能と役割 ・市場参加者の株式保有構造 ・証券会社の収益構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国との証券ビジネス比較 ・株主の権利 ・家計の株式投資の現状について ・商品設計の在り方 ・フィンテックなどの環境変化 ・制度改革(NISA 導入等)について ・各証券会社（大手、ネットなど）の特徴